

令和元年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン令和元年(社会教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1) 図書館サービス推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口サービスや特集コーナーの充実を図る。ホームページの活用、「図書館だより」「図書館通信」の発行等、更なる情報発信の充実を図る。</li> <li>各種事業を通じて学校や他団体と連携を図りながら読書並びに本に親しむ環境づくりの推進に努める。運用については適宜見直し・検証を行い、効率的な運用を目指す。</li> <li>「読書活動推進月間」の10月をうちどく推進強化月間と定め、今年度は「第7回佐賀うちどくフェスティバルIN嬉野」を開催する。ボランティア団体、他団体、地域との連携を図り、市民参加による図書館運営を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年1月に図書館システムの更新が行われ、新機能が追加された。この機能を広く市民に知ってもらい利用してもらえよう、窓口、図書館だより、HP、ツイッター等での広報・紹介を行った。特集コーナーについては、新たに他課とのコラボ企画を募集、両方の課で広報を展開することにより相乗効果を得た。</li> <li>小中学校への配本等を行っているが、学校と更に連携を深めるため、給食・司書会議へ出席し意見を交わした。(新システムについても説明)。</li> <li>読書活動推進月間である10月の12日に行われた「第7回佐賀うちどくフェスティバルIN嬉野」(主催 うちどくネットワーク)では、地元の小学校、地元のおなほボランティアグループの実践発表が行われ、今までの地道な活動を市民に広く知ってもらえた。また、地元絵本作家のワークショップが行われたり、パルンアートでの会場飾り付けなど、地域及び市民の方々との協力・連携ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報については、できる限りの手段を使ってと思っているが、防災行政無線については様々な意見があり、効果的、効率的な広報の仕方について再度検討が必要である。</li> <li>読書推進月間の内容について、少ない人員の中でのイベント開催は通常業務にも支障をきたす状況であるので、今後の展開については「嬉野市」として市全体で考えていく必要があると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた職員配置の中で、図書館だけの事業展開には限界があるので、他課、学校や他団体、ボランティア等との連携協力を深め、事業を進めていく。また、事業の効率化を図る。</li> </ul>
(2) 文化財の保存と活用	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>市史編さん室と連携し文化財資料の収集、調査に努め、新指定文化財候補に繋げる。</li> <li>読み聞かせグループや町並み保存会の協力を得て、伝統家屋を活用した「昔話のお話会」「餅つき」「お茶会」など大人と子どもが共有できる文化的体験の実施を目指す。</li> <li>市指定無形民俗文化財の保存及び後継者育成の支援を行う。</li> <li>庁内関係課、開発者との調整を図り、埋蔵文化財の保護、乱開発防止に努める。</li> <li>伝統的建造物群保存事業における保存修理の遂行および伝建地区の保全と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より市史編さん室が教育委員会部局となり相互協力がより図れるようになった。新指定文化財候補については今後の検討課題としたい。</li> <li>年末に塩田津町並み保存会や読み聞かせグループの協力で「お話し会と餅つき」を実施した。多くの方に参加頂き世代間交流ができた。</li> <li>市指定無形民俗文化財「畦川内綾竹踊り」保存会への支援を行った。</li> <li>土地開発に関して建設農林整備課、新幹線まちづくり課、農業委員会、環境下水道課等庁内の連携が強化でき、乱開発の未然防止に繋がった。</li> <li>今年度事業については、家屋の保存修理1件及び公開活用施設建築に伴う土地購入が完了した。年度内に2件の家屋修理も完了予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財資料の整理及び新指定文化財候補に繋がる資料収集や調査研究に要する時間が取れない。</li> <li>大人と子どもが共有する文化的体験の実施には地元や関係団体の協力が不可欠だが、高齢化等により近年は協力者の減少が顕著である。</li> <li>後継者不足及び高齢化に伴う指導者の不在。</li> <li>土地開発に関する問合せが増加し事務が煩雑になった。</li> <li>跡継ぎ不在のため、所有者に家屋修理の希望があっても実施に至らないケースや空き家が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の増員及び人的体制の充実を図る。</li> <li>イベント内容や開催時期の見直し等で、負担軽減を図る。</li> <li>綾竹踊り保存会との連携を図る。</li> <li>遺跡発掘調査等に係る検索システムの導入等、事務の簡略化を図る。</li> <li>町並み保存会や庁内関係課との協力を強化し、所有者の意向をふまえた空き家の利活用を検討する。</li> </ul>
(3) 文化の振興と環境づくり推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップや各種イベント等で地域に根差した活動を行い、身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を行う。また地域における各世代間の交流を基に、伝統文化の継承を図る。</li> <li>組織整備をすることにより文化振興基本計画に基づき文化振興を推し進めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会文化会館を拠点として、音楽や演芸などを公演し、また子どもたちから高齢者までの発表の場として会館を利用した。</li> <li>小学生を対象に伝統芸能継承のための教室を開き、地域の歴史や芸能体験の学習を行った。また地域の伝統を守る大人とそれを継承する子どもたちとの交流が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化振興計画に沿って継続的な活動が必要である。子どもたちや高齢者の発表の機会があったが、中間世代の参加が少ない。</li> <li>伝統芸能継承事業は一部の子どもたちへの体験はできたが、全市的に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な体験を基に創作意欲を發揮できる環境づくりが必要となる。各文化サークルの交流や発表の機会を増やすことが重要である。</li> <li>一部の地域ではなく、嬉野地区、塩田地区全体の歴史や伝統芸能を学ぶ機会をつくる工夫が必要である。</li> </ul>
(4) 次世代を担う青少年の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての育成事業を展開し、青少年の豊かな人間性を育む。また子ども同士の交流を深め、青少年の健全育成の向上を図る。</li> <li>地域全体が子どもたちとかかわりを持ち、地域で子どもたちを見守る環境の整備を推進する。</li> <li>放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体との連携により、さまざまな事業を実施し、子どもたちの生き生きとした姿が見られた。また高校生にジュニアリーダーとして参加してもらい、子どもたちとの交流を図った。</li> <li>各地域と連携して、子どもたちが行うラジオ体操に地域住民が参加し、地域の大人と子どものかかわりが十分できた。</li> <li>放課後子ども教室では、地域の高齢者の指導により、異世代間の交流ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業に対する参加者をもう少し増やしたかった。ジュニアリーダーの高校生が参加することによって、子どもたちの楽しみ方が違った。</li> <li>各地域により取り組む姿勢への温度差があり、大人の参加が少ない地域があった。</li> <li>一定の成果は見えたが、他の事業でも取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を通じた広報を十分に行う。またジュニアリーダーには各事業に参加してもらうよう積極的に呼びかける必要がある。</li> <li>地域コミュニティや老人会に協力を求め、一人でも多くの大人が参加できる環境を作る。</li> <li>他の放課後子ども教室の連携を図り、事業を多様化する。</li> </ul>
(5) 生涯学習のまちづくり推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会を提供し、誰もが参加できる生涯学習へのきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。</li> <li>新たなサークルの内容を提供し、多くの市民が参加できるような機会を設ける。</li> <li>自主的なサークル活動や地域活動を促進するため、出前講座の内容や講師陣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者教室において、一般教養講座及び趣味講座を実施し、生涯学習へのきっかけ作りとなった。</li> <li>高齢者の趣味講座を行っているが、行政が実施する教室を今年度で終了し、次年度からは自主運営のサークルとして活動してもらうよう参加者に説明した。</li> <li>各地区の公民館長を通じて出前講座を案内し、積極的な活用が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養講座では、開催地で参加者が偏りをみせている。</li> <li>行政に頼りきりの参加者が多く、また参加者の高齢化が進み、一部の教室ではサークル化は難しいとの反応があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サークルに移行した教室には、場所の提供を積極的に行いサークル化できない教室の高齢者には、きっかけ作りとして新しい講座を多く紹介し、興味のある講座へ参加ができるような環境づくり、また居場所づくりが必要となる。</li> <li>市民全体に通じて出前講座の広報を実施し、この活動を広く市民に伝える。</li> </ul>
(6) スポーツのまちづくり推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種大会や体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。</li> <li>子どもたちへのスポーツに対する関心を持つような事業を展開し、また日頃運動不足の中高齢者に向けた健康づくり教室などを関係各課と連携し事業を推進する。</li> <li>スポーツイベントの内容を充実させ、スポーツをするだけでなく、見ても楽しめるような機会を作ることでスポーツの関心を高める。また、スポーツ大会や合宿誘致を推進することで嬉野市の魅力を発信することも踏まえ、観光関係機関と連携し、市全体の知名度アップや地域活性化に努める。</li> <li>嬉野総合運動公園やリパティ、嬉野市中央体育館などハード面を充実させ、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向けの体育イベントや体力測定などを行い、子どもから大人までスポーツに親しみ生涯スポーツの普及に取り組むことができた。</li> <li>スポーツメーカーとの協力により、子どもたちへ遊びながらできる基本的な運動動作や、運動不足の年代を中心としたウォーキング教室を実施しスポーツへの興味を持ってもらった。</li> <li>観光、広報部署と連携し、忍者をテーマにした子どもスポーツイベントやオリンピック記念イベントを実施し、市外からの来場者も多かった。またドイツやオーストラリアからの海外選手の合宿もあり、市民や子どもたちとの交流ができた。</li> <li>嬉野市中央体育館が開館し、多くの市民に利用してもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人は市全体を対象としているが、実施時間帯を工夫し仕事後の教室を行ったが、まだ参加者が少ない。子ども向けの取り組みは学校の協力が不可欠で、全校による取組みができていない。</li> <li>ウォーキング教室の参加者には、健康面でのケアの取り組み方を合わせて行う必要がある。</li> <li>イベント及び合宿誘致について、安定的に大きなイベントができるように誘致活動が重要である。</li> <li>会館初年度で備品や運営管理に課題が多く見つかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体や学校とも連携を図り、魅力あるスポーツに取り組み、広報も定期的に行う。また成人向け教室については夜間開催の回数を増やし、参加しやすい環境をつくる。</li> <li>ウォーキング教室では連携しているスポーツメーカーの助言を受けて日常の健康状態のチェック機能を充実させる。</li> <li>オリンピックパラリンピックのイベントでは、観光や広報とも連携を図り、来訪者にどのように楽しんでもらうか協議を行う。また海外の合宿者には、市民や子どもたちとの交流の機会を増やす。</li> <li>利用者の意見を聴取し、気軽に利用できる環境をつくる。</li> </ul>

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<ul style="list-style-type: none"> <li>① (1)について、図書館におけるイベント開催時の駐車場の確保については、留意願いたい。</li> <li>② (2)について、文化財の保護については、土地開発と文化財保護法との関係で重要な問題であるので、スタッフの充実をはかっていただきたい。</li> <li>③ (3)について、働く世代が休日に参加したくなる催しとして、子ども親もともに遊べるイベントの工夫をはかっていただきたい。伝統芸能の継承は、全国高校総合文化祭の郷土芸能部門が生かせるような継続的な取組にできないか検討をお願いしたい。</li> <li>④ (4)について、青少年に対する教育的効果を高校にアピールして、学校の取組とすることや学校行事との関係で開催時期を工夫することなどで参加者確保ができないでしょうか。</li> <li>⑤ (5)について、サークルによってはメンバーが固定化し、新規メンバーが入りにくい雰囲気となることがあるのでチェックする必要があるかもしれません。</li> <li>⑥ (6)について、魅力ある様々な取組がなされていると思います。</li> </ul>	A

指摘を受けての改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント開催時には庁舎前駐車場を確保する。また、日頃より図書館前駐車場での施設利用外違法駐車について、注意喚起を行っている。</li> <li>② 埋蔵文化財の遺跡確認については、近年問い合わせが増えているので、検索システムを導入し事務の簡略化を図れるよう要望したい。</li> <li>③ 各文化サークルの発表や子どもたちの文化発表の機会をつくる。また子どもたちの発表の機会を増やすことで、その保護者にもイベントを楽しむ仕掛け作りを実施する。また伝統芸能継承については、各地域の伝統芸能を地域コミュニティ、各学校とともに経験や見る機会をつくる。</li> <li>④ 学校を通じた広報を十分に行い、高校生の部活動の一環で取り組めるように働きかけ、高校生が参加しやすい時期などを加味し開催時期を決定する。また同時にジュニアリーダーの育成に努める。</li> <li>⑤ 今後は今まであった各教室をサークル化し活動を続けてもらい、新しい講座を数多く高齢者に紹介したい。また高齢者の居場所づくりとして、福祉課や社会福祉協議会とも協力し出前講座の充実を図りたい。</li> <li>⑥ スポーツを「する、見る、関わる」を目標に多くのスポーツ事業に取組み、市民の参加者を増やしていきたい。</li> </ul>

評価4段階	A 達成(80%以上)
	B ほぼ達成(51~79%)
	C やや不十分(50~21%)
	D 不十分(20%以下)